

V7.4.0 における仕様変更のお知らせ

日頃は ALog ConVerter 製品をご愛用頂きまして、ありがとうございます。

このたびリリースいたしました ALog ConVerter V7.4.0 では、大幅な仕様変更、機能追加を行なっております。そのなかには、お客様に影響のある変更も含まれております。つきましては、お手数ではございますがバージョンアップ前に本文書をお読みいただき、変更点についてご理解いただきますようお願いいたします。

本文書の対象者

V7.4.0 より前のバージョンの ALog ConVerter をご利用のお客様を対象としております。

変更点一覧

本文書で説明する変更点は以下の 5 つです。

目次

V7.4.0 における仕様変更のお知らせ

- 変更点 1) タスク構成の変更
- 変更点 2) タスクスケジューラーの高機能化
- 変更点 3) レポート機能の仕様変更
- 変更点 4) LDAP 連携機能の仕様変更
- 変更点 5) ALog のシステムログをイベントログに書き込むオプションに関する仕様変更

バージョンアップ後の初回サービス起動時の移行処理について

V7.4.0 へのバージョンアップ実施後、初回のサービス起動時に設定の移行処理が実行されますので、サービス起動に数分程度の時間がかかる場合があります。その間は Web コンソールに接続できませんので、接続できない場合はしばらく待ってから改めて接続を試みてください。

変更点 1) タスク構成の変更

V7.4.0からタスクの構成を変更しましたので、解説いたします。

各仕様変更は、

- ログ変換タスクの変換処理でのメモリ使用量の改善
- 検索用 DB へのインポート速度の改善
- 検索用 DB のメモリ開放処理の改善

などの各種改善とともに実施しております。タスクの構成変更はバージョンアップ後に自動で行なわれます。

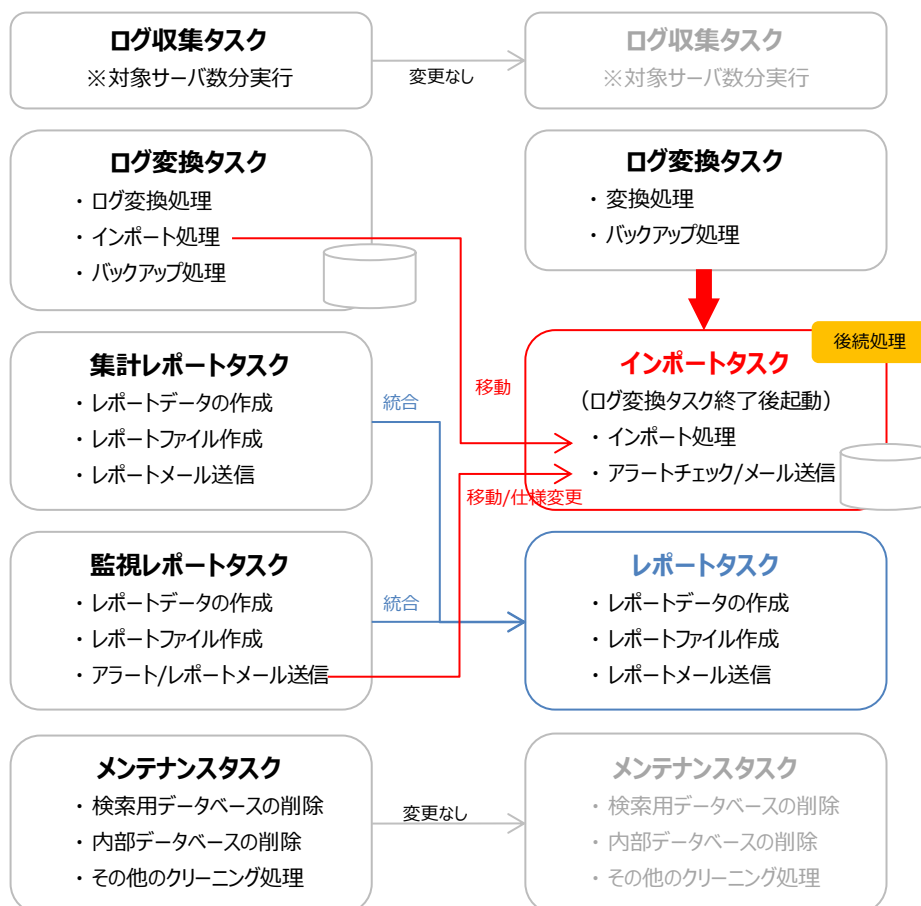
変更内容

◆ タスクの種類の変更について

- V7.3.2まで [ログ収集タスク/ログ変換タスク/集計レポートタスク/監視レポートタスク/メンテナンスタスク]の5種類のタスクで構成していました。
- V7.4.0では[ログ収集タスク/ログ変換タスク/インポートタスク/レポートタスク/メンテナンスタスク]の5種類のタスク構成となります。
- インポートタスクが新設され、集計レポートと監視レポートのタスクがレポートタスクに統合されています。

◆ タスクの処理の変更について

- ログ変換タスクの中で行なわれていたインポート処理が新設のインポートタスクに移動しています。このインポートタスクはスケジュール設定するものではなく、ログ変換タスク終了後、自動的に起動して処理を開始します。
- 監視レポートのアラートは、機能拡張/改善に伴いインポートタスクにて処理を行ないます。



改善及び影響についての解説

◆ インポートタスク新設(ログ変換タスクからインポート処理の分離)による改善及び影響について

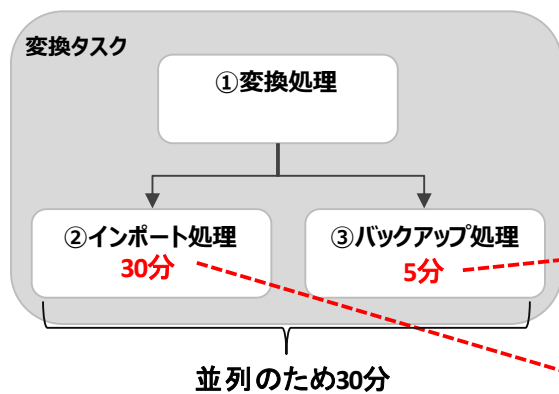
[改善]

インポート処理に長時間かかってしまうケースでは、その影響を受けてログ変換タスク自体が終了できず、変換待ちのファイルが大量にマネージャーサーバに滞留していました。そのため、次のログ変換タスクではログ変換やインポート処理がさらに長時間になるという悪循環が生じることもありました。この問題を解決するため、インポート処理中でも変換処理を進められるよう処理を分離しました。

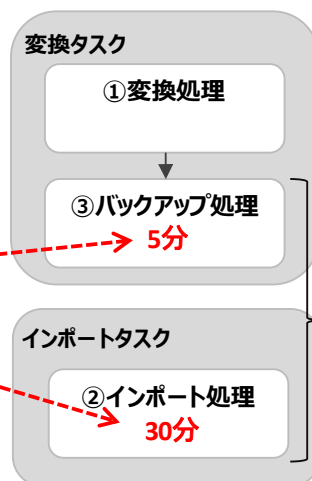
[分離による影響]

- 従来のログ変換タスクの処理には大まかに①変換処理、②インポート処理、③バックアップ処理がありました。このうち②インポート処理と③バックアップ処理は、環境/設定によって並列処理を行なっていました。②インポート処理をログ変換タスクから分離したことにより、並列処理ではなくなるため、合計処理時間は増えてしまう場合があります。ただし、③バックアップ処理自体はそれほど時間のかかる処理ではないため、影響は軽微であると考えています。
- 従来の構造では、変換処理とインポート処理が同時に動作することはありませんでした。新仕様ではこの2つが同時に動作するケースがありえます。同時に動作した場合、一時的にメモリ使用量が増加しますが、これは構造を変更したことによる仕様です。

V7.3.2以前



V7.4.0



※分数は例です。それぞれにかかる時間は環境により異なります。

35分かかるようになる

◆ アラート処理のタスク移動による影響について

[改善]

従来レポートタスクであったアラート処理をインポートタスクに移動することにより、インポート直後のデータに対し、チェックを行なうため、アラートの即時性が向上しました。

[分離による影響]

多くのレポート設定でアラート機能を有効にしている場合、インポートタスクの終了時間が延びてしまいます。また、インポートタスクの実行中に後続のログ変換タスクが終了した場合、そのログ変換タスク終了に伴いインポートタスクが自動起動されようとしていますが、前のインポートタスクが実行中のためスキップされます。

※レポートに関する変更については本文書の別章で詳細な説明をしているためここでは割愛します。

変更点 2) タスクスケジューラーの高機能化

V7.4.0でタスクスケジューラーに機能を追加しました。追加機能についてご案内いたします。

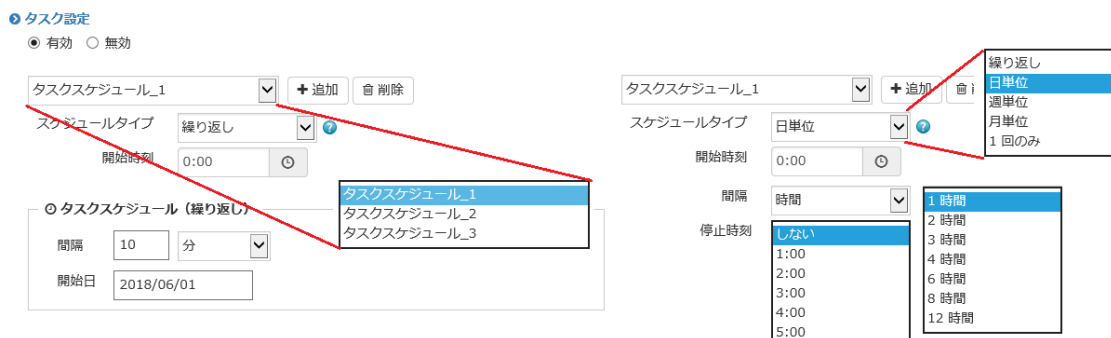
機能追加内容

◆ 1つのタスクに複数のスケジュールを設定できるよう機能追加

V7.4.0では、1つのタスクに対し、複数のスケジュールを設定できる機能を追加いたしました。

◆ タスクの停止時刻を設定できるよう機能追加

V7.4.0ではメンテナンス等の時間を計画的に設定できるよう、タスクの停止時刻を設定できる機能を追加いたしました。



具体的な使用方法については「ユーザズガイド」の説明項目「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

変更点3) レポート機能の仕様変更

V7.4.0ではレポート機能に関して大幅な仕様変更を行ないました。各仕様変更は、利便性の向上や、機能追加のしやすさなどを目的としています。基本機能の説明は「ユーザーズガイド」に記載しておりますので、ここでは仕様変更の観点でご説明いたします。重複する説明もありますが「ユーザーズガイド」もご一読いただけるとより理解していただけるかと思えます。

変更概要

◆特に重要な変更点

- 画面設計を大幅に変更し、集計レポート画面と監視レポート画面を統一
- 集計レポートタスクと監視レポートタスクを1つのタスクに統合
- Web コンソールから未確認のアラートログのチェックができるなど、「アラート」機能の仕様を変更

詳細) レポートに関する Web コンソール画面の変更点について

V7.3.2までは、「集計レポート」、「監視レポート」としてメニューバーや各設定において別画面を用意していましたが、V7.4.0では1つのレポート画面にまとめました。

V7.3.2 以前



V7.4.0



管理者

お気に入り	レポート名	概要説明	未確認アラート	最終更新日時	状態	PDF出力	CSV出力	メール通知	編集
★	サーバアクセスランキング	Webサーバ(へアクセスしたユーザーをランキング	-	2018/06/26 9:45	✓	✓	✓		✎
★	ファイルアクセスランキング	給与台帳ファイルにアクセスしたユーザーランキング	-	2018/06/26 9:45	✓	✓	✓		✎
★	ファイルの読み込み	顧客情報ファイルアクセス 月次レポート	-	2018/06/26 9:46	✓			✓	✎
★	ユーザーアクセスランキング	個人情報フォルダにアクセスしたユーザーをランキング	-	2018/06/26 9:46	✓	✓	✓		✎
★	ログオン失敗	リモートアクセス失敗 月次レポート	未確認あり	2018/06/26 9:51	✓			✓	✎
★	総ファイルアクセス		-	2018/06/26 9:46	✓	✓	✓		✎
★	土日のアクセス				✓				✎
★	夜間のアクセス				✓				✎

一覧の中に「集計」「監視」どちらの設定も表示される

◆ レポート全体を見渡しやすく

レポート設定は、左ペインに設定を表示する方式から、画面全体を使用した一覧表示に変更しました。一覧表示により、画面に表示できるレポート設定数が増えて見やすくなっています。

◆ レポートの設定確認を簡単に

一覧に主な設定内容を表示できるようにしたため、各レポート設定の設定値の確認が簡単になりました。

◆ 一括設定変更機能によりレポート設定の数が多い場合の操作性を向上

今までレポート設定ごとに有効/無効を切り替える必要がありましたが、「一括選択>一括設定変更」により一括でレポート設定の有効/無効の切り替えが可能になりました。

◆ レポート結果のサブダイアログ化&モーダレス対応

結果表示は、一覧表示と組み合わせた際により見やすい画面遷移を考慮し、ブラウザ内部でのサブダイアログ表示としました。また、サブダイアログも複数表示を可能にし、結果を比較しやすくしました。前日のレポートと当日のレポート、2つのダイアログを同一画面内に表示して確認したり、サマリーと詳細、2つのダイアログで並べて確認したり出来るようになりました。サブダイアログ内は左ペインを閉じられるようになっていきますので結果のみを大きく表示することもできます。

詳細) 集計レポートと監視レポートの統合について

集計レポートも監視レポートも同じ「レポート」とであるという考えのもと、基本的な扱いをまとめました。

- 設定一覧の中に集計レポートも監視レポートも表示されます。
- 集計レポートと監視レポートそれぞれのテンプレートはこれまでどおり用意しています。
- 集計レポートと監視レポートで使用できる機能に多少違いがあります。これらの仕様の違いについては、「ユーザーズガイド」の中で表にまとめ記載していますので、そちらを参照してください。

詳細) 管理>レポートの共通設定について

集計/監視レポートを「レポート」として取り扱うよう仕様変更したことに伴い、共通設定も統合されています。これにより出力先フォルダーも共通で1つとなりました。そのため、共通設定で集計レポートと監視レポートの出力先フォルダーを分けることはできません。

V7.3.2 以前

種類	出力先フォルダー	実行タスク	ファイル自動削除
集計レポート	C:\ALogData\output\report_sum	有効	3ヶ月で自動削除
監視レポート	C:\ALogData\output\report_watch	有効	3ヶ月で自動削除

V7.4.0

共通設定

出力先フォルダー
C:\ALogData\output\report 参照

ネットワーク上の共有フォルダーに出力する アカウント

ファイル自動削除
* 次の期間保持する ヶ月
 自動削除しない

タスクスケジュール
* 有効 無効

タスクスケジュール_1 +追加 削除

スケジュールタイプ +

開始時刻

間隔

詳細) 「アラート」機能の変更点について

V7.3.2 までの「アラート」機能はメール通知のみ可能でしたが、V7.4.0 では、ヒットしたアクセスログの増分のみを Web コンソール上で確認できるよう、レポート設定において、新たに「アラート」機能として設定項目を追加しました。(監視レポートのみの機能です)

新規作成 - ファイルの読込

状態 有効 無効

機能 レポート アラート

レポート名

<input type="checkbox"/>	お気に入り	レポート名	概要説明	未確認アラート	最終更新日
<input type="checkbox"/>	★	機密ファイルの監視	〇〇部「*機密*XXX」ファイル操作監視	未確認あり	2018/...

メール通知

有効/無効 有効 無効

件名

送信元アドレス

送信先アドレス

アラート

ファイル添付 (PDF) 添付する

通知条件 初回のみ通知 常に通知

- 「アラート」機能は監視レポートのテンプレートからのみ利用できます。
- 「アラート」機能を有効にすることで、以下の2つのことができるようになります。
 - ① 「レポート」画面>「未確認アラート」列から未確認のログを確認
 - ② メール通知(アラート通知をONにした場合)
- 「アラート」機能はインポートタスク実行時に動作します。そのため、Web コンソール上の「未確認アラート」列の表示の更新、アラートメールの通知はインポートタスク実行の際に行なわれます。これにより、インポートした直後のデータを即時にチェックできるようになりました。

詳細) お気に入り機能について

Alog ConVerter をお使いのお客様それぞれにおいて、閲覧頻度の多いレポート設定があるのではないかと考え、お気に入り機能を実装いたしました。レポート設定の一覧に表示されている「☆」マークをクリックすることでお気に入り設定が有効になります。

お気に入り設定を有効にすることで、

- レポート設定の一覧表示において、フィルターで「お気に入り」のみを表示する
- レポート結果ダイアログの左ペインにレポート設定のショートカットを表示する
- ホーム画面の「レポート/アラート」にショートカットを表示する

などのことができます。

お気に入りの設定は Web コンソールへのログインアカウントに紐づきます。ログインユーザー「A さん」でお気に入りの設定しても、「B さん」がログインしたときにはお気に入りにはなっていませんので、ログインユーザーごとに設定してください。また、管理画面から行なえるレポート設定のエクスポート/インポートでは、レポート設定の設定値のみが対象となるため、ログインアカウントに紐づいたお気に入り設定をエクスポートできませんのでご注意ください。

詳細) レポート再作成機能の機能性向上について

レポート再作成機能について以下の機能追加を行ないました。

- レポート再作成を実行後、別画面に遷移してしまっても、再作成画面を開くことで再作成状況を確認できるよう機能を追加
- レポート再作成処理をキャンセルする機能を追加

なお、レポート再作成処理のキャンセル機能は、複数のレポートを一度に実行した場合に便利な機能です。プログラム上、処理を中止できるタイミングが限定されているため、再作成のレポート数が少ない場合、キャンセルをしても再作成処理が完了してしまう場合があります。

詳細) レポートのファイル出力で共有フォルダーに出力する機能を追加

V7.4.0 では、レポートファイルをローカルフォルダーだけでなく、共有フォルダーにも出力できるよう機能を追加いたしました。



ただし、共有フォルダーへの出力を指定出来るのは Web コンソールへログインしたアカウントが管理者権限を保持している場合に限りです。これは、以下の理由によります。

- 管理者としてレポートの出力先をローカルフォルダー以外にたくないというケースがあるため
 - 複数のレポート設定で同一サーバへの出力を指定する場合、使用するアカウントを統一する必要があり、誤って複数のアカウントが使われてしまうと、エラー発生の原因となるため
- ※ 類似する機能としてアクセスログのバックアップ出力があります。

詳細) 監視レポートに、「1日の区切り時間」機能を追加

従来のレポート機能は「1日」を「0:00-23:59」の時間でしか扱えませんでした。V7.4.0では、「1日」の時間帯を指定できる「1日の区切り時間」機能を追加しました。「7:00」と設定すると「7:00-翌06:59」を1日として扱います。

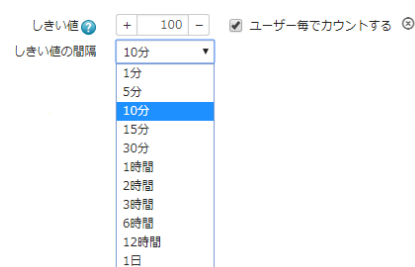
例えば、『20時から翌朝5時までを1つのレポートとしたい』場合は、「区切り時間」を「5:00」に、「時間帯」を「20:00- 4:59」に設定します。

※従来のレポート機能では1つには出来ず「20:00~23:59」、「0:00~4:59」と二つに分かれていたケースです。

詳細) 監視レポートのしきい値集計期間を「1分~1日」の間隔で指定できる機能を追加

従来のレポート機能の「しきい値」の集計期間は「1日」固定で、設定変更はできませんでした。V7.4.0では、「しきい値」の設定と同時に「しきい値の間隔」が設定できるようになりました。

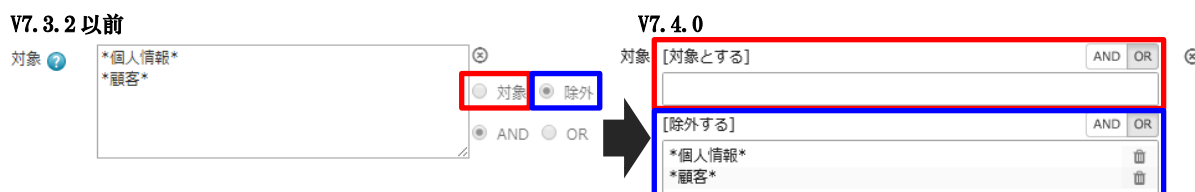
例えば、『10分間に100回RENAME操作があったら、レポートを作成したい』場合は、「しきい値」を「100(レコード)」に、「しきい値の間隔」を「10分」に設定します。



詳細) レポートのフィルター条件(除外の検索条件)の機能改善

従来のレポート機能では、ユーザー欄、対象欄をはじめとしたフィルター条件(検索条件)で「除外」した場合、ユーザーの想定とは異なる結果になることがありました。これを解消するため、以下の2点の変更を行ないました。なお、「対象検索」の結果には変更はありません。

- 対象と除外の設定を別々に行なえるよう画面を変更
- 除外のANDとORの動作をより直感に即したものになるよう修正



【重要】

V7.4.0で「除外する」を指定した場合の出力結果は、「対象とする」で指定した場合の出力結果と逆になります。

※V7.3.2までは、これが逆転したものでなかったのがイメージと違う結果であるとユーザーが感じる原因になっていました。

【例】

- 1) V7.3.2 以前では、対象の条件に「*個人情報*」「*顧客*」を入力し、「除外」を選択する
- 2) V7.4.0 では「除外する」に「*個人情報*」「*顧客*」を入力する
→上記「1)」、「2)」の設定は同義ですが、OR/AND それぞれで組み合わせた場合、結果は以下のようになります。


[対象とする]

アクセスログ例	V7.3.2		V7.4.0	
	OR	AND	OR	AND
¥¥server¥営業部¥個人情報¥xxxx	ヒットする	ヒットしない	ヒットする	ヒットしない
¥¥server¥営業部¥顧客管理¥xxxx	ヒットする	ヒットしない	ヒットする	ヒットしない
¥¥server¥サポート部¥顧客 data¥個人情報(要削除)¥xxxx	ヒットする	ヒットする	ヒットする	ヒットする
¥¥server¥サポート部¥社内¥議事録¥xxxx	ヒットしない	ヒットしない	ヒットしない	ヒットしない

対象の時の結果と除外の結果が逆転する

[除外する]

アクセスログ例	V7.3.2		V7.4.0	
	OR	AND	OR	AND
¥¥server¥営業部¥個人情報¥xxxx	ヒットする	ヒットしない	ヒットしない	ヒットする
¥¥server¥営業部¥顧客管理¥xxxx	ヒットする	ヒットしない	ヒットしない	ヒットする
¥¥server¥サポート部¥顧客 data¥個人情報(要削除)¥xxxx	ヒットしない	ヒットしない	ヒットしない	ヒットしない
¥¥server¥サポート部¥社内¥議事録¥xxxx	ヒットする	ヒットする	ヒットする	ヒットする


	注意 検索画面では従来どおりの動作となり、レポートとは設定/動作が異なりますので注意してください。
---	--

<詳細仕様> ※違いを詳しく知りたい方はお読みください。

V7.3.2 以前では設定した条件で除外したものを AND または OR で評価していましたが、V7.4.0 からは先に条件の AND と OR を評価し、その結果マッチしたものを除外するようにしました。その結果、直感的でなくわかりにくかった仕様を改善しました。対象で指定した条件及び AND/OR をそのまま除外の方に指定した場合、対象で得られる結果と正反対の結果を得られることになります。

詳細 「0件レポート」機能について

従来、レポート処理で条件にヒットするレコードが0件の場合、レポートは作成しませんが、設定ファイルを直接編集することで、0件の場合でもレポートを作成するオプション機能は存在していました。V7.4.0 ではこの機能を標準機能にし、画面上で設定できるようにいたしました。

詳細設定
0件レポートの作成  <input checked="" type="checkbox"/> 該当のアクセスログが0件でもレポートを作成する

- 「0件レポート」機能をオプション機能(IsOutNoDataReport : true) から標準機能にし、Web コンソールに表示
- すべてのレポートに対して設定する仕組みだったものを、レポート設定毎に設定できるよう変更
- 週次/月次のレポートで、0件の集計レポート・監視レポートの出力機能を追加

V7.3.2 では集計/監視レポートタスクが実行されるたびに0件レポート作成処理が行われ、1日に何通も0件のメ

ール通知が送信されることがありました。V7.4.0では、日次のときは1日に1回、週次のときは週に1回、月次のときは月に1回、最初のレポートタスク実行時に動作するよう変更いたしました。この変更により、複数の同じ内容のメール通知が送信されなくなりました。

詳細) その他の細かな変更点

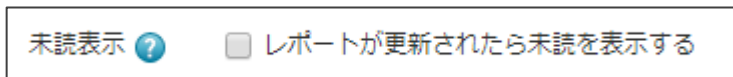
その他にも細かな変更を行なっています。

- レポートのフィルター設定において、従来からの休日を対象にする機能に加え、休日を除外する機能を追加
※ 詳細はユーザーズガイドの「●フィルター「曜日」-「休日の扱い」」を参照ください。
- レポートの詳細では最新の検索結果を表示するため、サマリーとの間に差異が生じていましたが、これを改善するために仕様を変更
※ 詳細はユーザーズガイドの「●レポート再作成の実行による結果差異について」を参照ください。
- レポートの詳細表示/ファイル出力に対し、「アクセスログのソート」機能を追加
- レポートにおける詳細 CSV ファイル出力の、使用メモリと処理速度の改善
- レポート再作成中にレポートタスクが実行された場合、エラー終了ではなく警告終了となるように仕様変更
- レポートの詳細 PDF ファイルに対象期間を表示するよう仕様変更
- その他、細かな仕様改善、修正
-

詳細) 「未読表示」機能を廃止

V7.4.0で「アラート」機能を充実させ、Web コンソール上で未確認のログを確認できるようになりました。これを受けて、監視レポートに存在していた「未読表示」機能を廃止しました。「アラート」機能が上位機能となりますので、こちらへの設定変更をご検討ください。

(V7.3.2までに存在した「未読表示」機能)



詳細) バージョンアップについて

V7.4.0で様々な仕様変更、機能追加を行なっておりますので、バージョンアップ前の設定に対するバージョンアップ後の動作については、以下の表をご確認ください。バージョンアップ時に殆どの設定は移行されますが、一部移行処理が行なえず、手動での設定が必要となる場合があります。

バージョンアップ前の設定	バージョンアップ後の動作について
<ul style="list-style-type: none"> ・「未読表示」機能を使用している 	<p>「未読表示」機能の設定は「アラート」機能の設定として引き継がれませんので、必要に応じて、手動で設定を有効化してください。「未読表示」機能と「アラート」機能は同じものではなく、「アラート」機能の方が処理負荷は少し増加します。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 集計レポートと監視レポートのどちらも使用している ➤ レポートの設定で共通設定を使用している 	<p>タスクスケジュールの移行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 集計レポートタスクのスケジュール設定は、V7.4.0でレポートタスクに引き継がれます。 ➤ 監視レポートタスクは廃止されます。 <p>レポートの共通設定の移行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 集計/監視レポートを統合したため、『管理>レポート』における共通設定が1本化されます。移行処理はバージョンアップ後初回起動時です。 ➤ 集計レポートの共通設定は、レポート全体の共通設定として引き継がれます。 ➤ 集計の各レポート設定で共通設定を選択していた場合、変更はなく今まで

	<p>通りの出力先に出力されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 監視の各レポート設定で共通設定を選択していた場合、各レポートの「個別設定」として引き継がれます。(共通設定ではなくなります) <p>※ バージョンアップした場合と、V7.3.2以前のレポート設定のエクスポートファイルをインポートした場合では動作が異なります。 エクスポートファイルには、監視レポートの共通設定情報が含まれていないためです。</p> <table border="1" data-bbox="606 376 1513 533"> <tr> <td data-bbox="606 376 829 436">バージョンアップ</td> <td data-bbox="829 376 1513 436">「出力先：共通設定」は個別設定に変更になり、出力先フォルダーは変更がない</td> </tr> <tr> <td data-bbox="606 436 829 533">インポート</td> <td data-bbox="829 436 1513 533">「出力先：共通設定」は共通設定のままになり、集計レポート側の共通設定が使われるため、出力先フォルダーは変更される</td> </tr> </table> <p>インポート処理後はレポート設定から出力先フォルダーを確認してください。</p>	バージョンアップ	「出力先：共通設定」は個別設定に変更になり、出力先フォルダーは変更がない	インポート	「出力先：共通設定」は共通設定のままになり、集計レポート側の共通設定が使われるため、出力先フォルダーは変更される
バージョンアップ	「出力先：共通設定」は個別設定に変更になり、出力先フォルダーは変更がない				
インポート	「出力先：共通設定」は共通設定のままになり、集計レポート側の共通設定が使われるため、出力先フォルダーは変更される				
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 集計レポートと監視レポートのどちらも使用している ➤ レポートのタスク実行をコマンドで行なっている 	<p>集計レポートと監視レポートのタスクが統合されたため、コマンドによるタスク実行を行なっていた場合、以下のような違いがありますので注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 集計レポートタスクのタスク ID はレポートタスクとして引き継がれます。今までと同じコマンドを実行するとレポートタスクが実行されます。(レポートタスクの実行で、集計/監視どちらのレポートも作成されます。アラート機能はレポートタスクでは動作しません) ➤ 監視レポートのタスク ID は削除されていますので実行されません。 ➤ インポートタスク (内部的にアラート処理を含む) は新設されていますが、ログ変換タスク終了後に自動で実行されますのでコマンドによる実行指示は不要です。 				
<ul style="list-style-type: none"> ➤ レポートで「除外」の条件設定をしている 	<p>除外条件の設定変更は、バージョンアップ時に自動で移行処理を行なうため、検索結果に影響ありません。お客様による設定変更は不要です。 例：除外の AND 条件を設定していた場合、OR 条件に切り替える移行処理が行なわれます。</p>				
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 0 件レポートの設定を有効にしている <code>IsOutNoDataReport : true</code> 	<p>V7.3.2 以前で 0 件レポートを有効にしている場合、バージョンアップ後、すべてのレポートで、0 件レポート設定が有効になります。0 件レポートの出力が不要なレポートは、個別に無効の設定をしてください。 ※ レポートタスクの実行状況により、レポートのメールが 1 回余分に送信される場合があります。 日次レポートは、バージョンアップ前日分 週次レポートは、バージョンアップ前週分 月次レポートは、バージョンアップ前月分</p>				

変更点 4) LDAP 連携機能の仕様変更

V7.4.0 で LDAP 連携機能 (Web コンソールにログインするアカウントを LDAP 認証と連携する機能) の仕組みについて仕様変更を行ないましたので、解説します。

変更内容

従来の LDAP 連携の仕組みでは認証が成功しない環境があることが判明し、これに対応するために仕様変更を行ないました。

- Web コンソール>管理>ログインアカウント画面上の変更はありません。

→2018/10 追記 V7.5.0 では LDAP 設定画面で「接続アカウント」が指定出来るようになりました。

- V7.3.2 までに登録された LDAP 設定に紐づいた認証は従来通り動作します。

- V7.4.0 にバージョンアップもしくは新規インストール後に新規作成した LDAP 設定では新方式で動作します。

新方式では今まで認証出来なかった環境においても認証出来る可能性が高くなります。また、今回新方式を実装したことにより、ユーザーズガイドに記載されていた以下の制限事項を廃止しました。

「LDAPS で認証する場合、マネージャーサーバが同じドメインに所属している必要があります。」

条件ごとの設定方法

◆ V7.3.2 以前で問題なく LDAP 認証が成功している環境の場合

設定変更は不要です。今の設定のまま使用してください。

◆ マネージャーサーバが所属するドメインのドメインコントローラを LDAP 認証サーバとして指定した場合

V7.4.0 で、LDAP 設定を新規登録するだけで認証に成功します。

◆ その他の環境の場合

(例：マネージャーサーバが所属するドメインとは異なるドメインコントローラを LDAP 認証サーバとして指定した場合、Active Directory 以外の LDAP 実装を認証サーバとして指定した場合)

V7.4.0 で、LDAP 設定を新規登録後、設定ファイルに対して認証サーバへの問い合わせ時に使用するアカウントを指定してください。(2018/10 追記 V7.5.0 では LDAP 設定画面の中に「接続アカウント」欄が新設されています。XML 編集ではなく、画面上から設定を行なっていただくことが可能です。)

[設定方法]

設定ファイル[ace_config.xml]に以下のマークした部分を書き加えてください。

```
<LdapList>
  <LdapConfig>
    <ID>test</ID>
    <Name>test</Name>
    <LdapServer>111.111.111.111</LdapServer>
    <Port>389</Port>
    <UseLdaps>>false</UseLdaps>
    <Method>Ldap</Method>
    <SearchRange>test</SearchRange>
    <Account>
      <LoginId>XXXXXX@test.co.jp</LoginId>
      <PasswordEncrypted>暗号化したパスワード</PasswordEncrypted>
    </Account>
    <Filter>SAMAccountName</Filter>
  </LdapConfig>
</LdapList>
```

[パスワードを暗号化する手順]

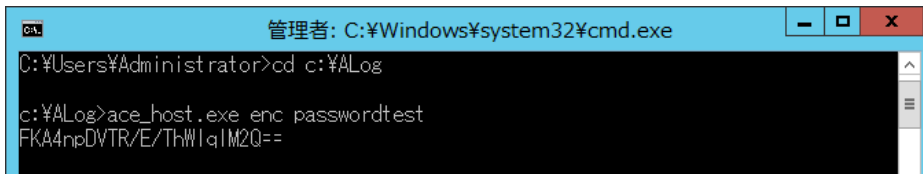
以下の手順でパスワードを暗号化できます。

- 1) マネージャーサーバでコマンドプロンプトを起動する。
- 2) コマンドプロンプトで ALog プログラムインストール先フォルダーに移動する。
- 3) 以下のコマンドを実行する。

```
>ace_host.exe enc <暗号化したいパスワード>
```

- 4) コマンドプロンプトに暗号化されたパスワードが表示されるので、コピーして設定ファイルに入力する。

例：[passwordtest]というパスワードを暗号化する



```
C:\Users\Administrator>cd c:\¥ALog
c:\¥ALog>ace_host.exe enc passwordtest
FK44npDVTR/E/ThW1qIM2Q==
```

※2018/10 追記 LDAP 設定画面の「接続アカウント」欄



補足

LDAP 設定が新旧どちらの方式で動作しているかの確認方法を解説します。トラブルが無い場合は、方式を気にしていただく必要はありません。必要な場合のみ確認してください。

- 1) マネージャーサーバで設定ファイル [ace_config.xml]を開く。
<アプリケーションデータ用フォルダー>¥config¥ace_config.xml
- 2) XML ファイルの先頭にある<LdapList>内の<LdapConfig>の中にある<Method>の要素を確認する。

XML の記述	動作する方式
<Method>~</Method>の行がない場合	旧方式で動作
<Method>Legacy</Method>の行がある場合	旧方式で動作
<Method>Ldap</Method>の行がある場合	新方式で動作

※動作方式を切り替える場合は、上記の「Legacy」⇔「Ldap」を書き換えてください。XML 編集時は Web コンソールからその他の設定更新を行なわないでください。

変更点 5) ALog のシステムログをイベントログに書き込むオプションに関する仕様変更

ALog のシステムログをイベントログに書き込むオプション (NLog.config ファイルから設定する機能 /V6 名称: ERROR_INFORM) を有効にした場合に書き込まれるログの内容を変更しました。本説明は、既にこの機能をご利用の場合のみご確認いただき、必要に応じて設定変更をお願いいたします。

変更内容

- V7.3.2 までは出力レベル (「情報 (Info)」、「警告 (Warn)」、「エラー (Error)」) を指定することで、指定したレベル以上のシステムログ (警告を設定した場合は警告とエラー) をすべてイベントログに書き込んでいました。
- V7.4.0 では、対象サーバ追加の作業中に発生するエラー「DOM_E_7253:サーバの存在を確認できません。」のように、『Web コンソール操作中にしか出力されないシステムログ』はイベントログには書き込まず、タスク実行中など、『Web コンソールを操作していないときにも出力されるシステムログ』のみを書き込むように変更しました。

バージョンアップに伴う注意点

既に機能をご利用いただいている場合、V7.4.0 へバージョンアップしただけでは新仕様の動作にはなりません。以下のどちらかの手順を実施することで、新仕様で動作するようになります。現状のままで良い場合には、設定変更は不要です。

[方法 1]

V7.4.0 でマスターファイル「NLog.config」を更新しているため、お手持ちの手順を最初からやり直し、「NLog.user.config」を再作成してサービスを再起動する

[方法 2]

既に存在する「NLog.user.config」を開き、以下の行を書き換え、サービスを再起動する。

<V7.3.2>

```
<when condition="(length('{event-context:item=msgid}') == 0) or  
(starts-with('{event-context:item=msgid}', 'UOP'))" action="Ignore" />
```

<V7.4.0>

```
<when condition="(length('{event-context:item=msgid}') == 0) or  
(starts-with('{event-context:item=msgid}', 'UOP')) or  
(equals('{event-context:item=systemlog-output-disabled}','True'))" action="Ignore" />
```

※ドキュメントの都合上改行されているように見えますが、すべて 1 行で記述してください。

「or」の後には半角空白が必要です。

以上

※ALog ConVerter、ALog ConVerter のロゴマークは株式会社網屋の登録商標です。

※その他の会社名、商品名は各社の登録商標または商標です。

※本書の一部または全部を無断転載することを禁止します。

※本書に記載されている機能および手順に関しては、将来予告なしに変更する場合があります。

※本書は正確な情報を記載するよう努めておりますが、誤植や作成上の誤記がないことを保証するものではありません。